

2008 年

11 月 26 日（水曜日） - 丹後機械工業協同組合の 60 周年記念式典 -

本日、丹後機械工業協同組合の 60 周年記念式典が盛大に開催された。

この 60 年間、9 代にわたる理事長様、多くの会員、関係者の皆様のご尽力で、「産業の振興なくして地域の発展なし」との理念のもと丹後の産業界全体の核となって先頭に立って産業界をけん引され、地域の生活と発展を支えていただいたことに心から感謝と敬意を捧げます。

今、全国的に大変厳しい景況の中、また、地域の自律的な取組みがますます必要になってきている制度環境の中で、丹後の産業発展のためには、丹後の「弱みを克服する」努力を尽くしながら、同時に丹後の「強みを活かしていく」ということが必要だ。

「強みを活かす」取組みとしては、もちろん農業や環境関連産業、観光業などとの連携事業も大切だが、何といても、我々の大きな強みは、近畿最北部の当地にあってもこれだけの大きな規模の機械金属業界の集積が現在築かれている強み、伝統の厚みとそして何より集積を長い間かけて重ねてこられた丹後機械に代表される丹後のものづくり人の粘り強い努力、あきらめない姿勢、その“人間の伝統”だと思う！丹後には、我が国ものづくり発祥の地としての我が国ものづくり本家の遺伝子を継承しているものづくり人の伝統が脈打っているし、この人間の伝統の連なりに、これまでをふり返り敬意を感じ、今後を展望するうえでは心強さを感じています。

他方、「弱みを克服する」ため、行政としても、引き続き、基幹道路や用地整備、人材育成など産業基盤、企業環境の整備に尽くすが、いずれ遠からず、例えば道路整備なら、京都縦貫もつながり、鳥取豊岡宮津道により環日本海道も山陰と北陸がつながってくる、舞鶴港なども整備され、大都市圏とのアクセスの弱みが克服されれば、これは、逆に、当地の弱みは、一転、強みへと転じてガラッと変わる！すなわち、そうなれば丹後は環日本海の東西交流の拠点であり、かつ環日本海と畿内との交流の拠点であり、さらに東アジアとの交流拠点であるなどとして、我が国の中でも新時代の国内外の大交流をけん引するようなとても優れた産業環境の一角に形成されるわけで、新しい時代にそんな大きな夢がもてるのがこの丹後である。

丹後機械工業協同組合の 60 周年という、いわば業界の還暦を迎える節目の機会に、そんな夢を産地をあげて共有しながら、我が国ものづくり人本家としての底力の練磨と開拓をますます重ね、末永い丹後の発展につなげていきたい。本日は、そんな夢に向かう弾みとなる機会である。